

議事録（要旨）（案）

会 議	第3回英語交流のまちIwakuni 創生プロジェクト検討会
開 催 日 時	令和元年12月17日（火）10:00～12:00
開 催 場 所	岩国市役所 41・42会議室
出 席 者	<p>【委 員】 岩野委員(座長)、大岩根委員、岡崎委員、藏重委員、ソーレンセン委員、二上委員、波田委員、浜桐委員、中邑委員、松重委員</p> <p>【オブザーバー】 佐久間委員 ※欠席 竹田委員</p> <p>【岩 国 市】 重岡教育次長、三浦教育政策課長</p> <p>【事 務 局】 英語教育推進室 熊田室長、永木次長</p> <p>【コンサル（ぎょうせい）】 池田、高橋</p>
配 布 資 料	<p>資料1 英語交流のまち Iwakuni 創生プロジェクト基本方針[素案]</p> <p>資料2 英語交流のまち Iwakuni 創生プロジェクト検討会意見まとめ</p> <p>資料3 英語交流のまち Iwakuni 市民ワークショップ結果のまとめ</p> <p>資料4 英語交流のまち Iwakuni 創生プロジェクト基本方針[骨子]</p>
議 事	<p>1 開会、事務局あいさつ</p> <p>・これより第3回英語交流のまちIwakuni 創生プロジェクト検討会を開会する。 【岩野座長】前回の委員会の後に沢山の意見をいただいた。本日はそれをふまえた修正案について、引き続き活発なご意見をお願いしたい。</p> <p>2 議題</p> <p>◆「英語交流のまちIwakuni創生プロジェクト基本方針」の策定について （事務局による資料1～3の説明）</p> <p>〈委員との質疑回答〉</p> <p>【岩野座長】「第1章 策定にあたって」の内容で意見や質問があれば。</p> <p>【中邑委員】プロジェクトの位置づけの「地域再生制度」の部分に「地域が行う自主的かつ自立的な取組を国が支援するもの」とあるが、具体的な内容は。</p> <p>【事務局】経済的支援の側面が大きい。</p> <p>【波田委員】このプロジェクトはあくまで日本人が英語を使って交流していくことが前提であり、アメリカ人が日本語を学びながら交流を図ることは別物として考えてよいか。</p> <p>【事務局】アメリカ人が日本語を学びながら、という支援もしていきたいが、基本的には日本人が英語を使っての交流が前提となる。</p> <p>【岩野座長】次に4章について。8つの留意点が挙げられているが、留意点1の対象は子どもだけでなく、「大人も子どもも」にしてはどうか。それにより留意点3が子ども、留意点4は大人、と明確にできる。その他、ここで気づいた点などあれば。</p> <p>【中邑委員】17ページに、岩国基地に平成30（2018）年3月時点で1,516人の日本人が従事とある。おそらくこれは基地内の従業員数を指していると思うが、それ以外にも関連する事業や雇用は増えてきており、その人たちにも英語が必</p>

要なのでは。また、定住促進という項目もあるが、雇用の創出の具体像は見えているか。

【事務局】例としては小さいが、Atago Hills（愛宕山地区・米軍家族住宅エリア）への入居者が一定数に留まる一方で、日本の通常の暮らしを希望し、川下地区や愛宕地区の大きな借家へ入居をする外国人は多いと聞いている。

【中邑委員】ということは、不動産関連の就業者は、英語が必要ということになる。あとは幼稚園などだろうか。

【事務局】そのようには思っている。

【藏重委員】タクシーの運転手さんから、岩国はタクシーの需要がとても多いが働きたい人が少ない、アメリカ人は働けないのかと聞かれたことがある。東京ではアメリカ人やインド人がタクシー運転手として働いていると聞いているが。

また就業ということであれば、アメリカ人の主婦と話をした際に、ボランティアや日本人との交流などに参加したいが、ベビーシッターが少なく困っているという話も聞いた。日本の子ども達がベビーシッターをしながら英語を学ぶといった手法もあってもいいのでは。

【岩野座長】留意点のどこかに、今後は産業や仕事のあり方が変わっていくといった事をもう少し強く出していく必要はあるかもしれない。

【藏重委員】子どもたちへの英語教育の他に、シニアの英語交流も加えるといいのでは。

【岩野座長】先ほどのアンケートや先日のワークショップでも出ているが、多様な年代層やライフスタイルに対応した交流も考えていければ良いと思う。

あと一点、用語の使い方で、基地の住民の方は基地住民と言うべきか、また、外国人という言葉は、一緒にこの街に暮らしていると感じられる呼び方の方がいいのではと思う。もう少し使い分けを丁寧にしていきたい。

【藏重委員】なかなか難しい。的確な用語があればいいが。

【岩野座長】基地がある街は他にも沢山あるので参考にしていきたい。

【中邑委員】留意点8の「他市の子どもたちより英語力を持つことになる」と想定され」ということが楽しみ。英語学習機会が増えていくことに期待したい。ALT（外国語指導助手）の配置状況はどうか。

【事務局】全中学校（14校）に国際交流支援員として外国人が配属されている。基本的な勤務時間は学校に合わせて8時から16時まで、英語の授業に限らず、一日中同じクラスを担当するといった幅広い運用もされている。運動会などを含めて、子ども達と一緒にいる機会は今までより増えている。

小学校の英語の授業については学年によって実数が違ってくるが、1～2年生で年間10時間。これは市として独自に行っているもの。また、全国に先駆けて3～4年生で35時間、5～6年生で70時間の授業を始めている。

【藏重委員】年間の授業時間として考えると大したことはないと感じてしまう。岩国が英語のまちとしてアピールするためには、小学生で英検を取得したなど、何か特化した目玉が必要では。また、「リトルアメリカ」が岩国にはあるという情報を、もっとインターネットやSNSで宣伝していくべきと思う。

【岩野座長】他市の子ども達よりも英語力をもつということをどうやって証明していくのかについては、今後検討していきたい。

38ページの基本方針について。「英語があふれるまち」という表現についてはどうか。

【二上委員】あふれるというと情報過多なイメージもある。個人的にはもっと単

純に、英語に親しめる、くらいでいいのではと思う。

【藏重委員】 逆にあふれる、くらいの方が宣伝効果はあるのでは。

【二上委員】 一般の人が聞いた時にどうかと思う。特に英語にアレルギーのある人たちにとっては、違和感があるかなという感じはある。

【岩野座長】 第5章 基本的な考え方のページにある図についてはどうか。

【中邑委員】 基地内の小中学校やペリースクールは、日本人でも通えるのか。

【浜桐委員】 ペリースクールは軍人、軍属の子どものための学校で、基本的には日本人を対象にしていない。日本人には特別プログラムなども必要になるので、受け入れの余裕があるかどうか。また、私立大学に匹敵する学費も必要。現在は通っている日本人はいない。

【中邑委員】 交換留学生などの制度があれば、まさに英語があふれるまちになりそうな気がするのだが。

【浜桐委員】 そういった制度はなく、難しいと思う。あくまでも軍人の家族のための学校で、インターナショナル・スクールではないということが前提になるので。

【岩野座長】 38～39ページの「1 基本的な考え方」「2 基本方針」はどうか。

【藏重委員】 38ページの「訪れたい国際都市」が気になる。アメリカにもあるジャパントウンのように、訪れたいリトルアメリカなどの方がいいのでは。

【岩野座長】 「訪れたい国際都市」という言葉がここで始めて出てくるので、違和感がある。このプロジェクトに合うような言葉はないか検討していきたい。

【藏重委員】 相応しいキャッチフレーズをアメリカ人と話し合う中で「あめり国（アメリカと岩国を併せて）」という言葉が出た。更に加えてブリッジ＝錦帯橋や英語を融合した言葉がないか、という話をしていた。

【二上委員】 日米協会は英語名でJAS（Japanese American Society）と呼んでいるが、基地にはアメリカ以外の国籍の人もあり、そういった人達をどう呼ぶのかという悩みがあり、今は「SOFA」と呼んでいる。イベントのときも日本人とアメリカ人という言葉は使いにくくなっているし、クリスマスパーティも単に「パーティ」にするなど、宗教的なことにも配慮する必要がある。

【藏重委員】 どういった国籍の人が多いのか。

【二上委員】 アメリカの永住権があれば基地に勤務できるが、アメリカ人とは限らない。

【ソーレンセン委員】 国籍より言語に集中した方が現実的と思う。アメリカ人といっても皆が英語で話しているわけではない。

【岡崎委員】 今後、（アメリカ以外の）外国人が増える可能性も想定すると、アメリカ人だけに固定しない方がいいと思う。

【波田委員】 基本方針3の中に、ビジネスというキーワードを入れるのはどうか。働くというテーマが出てきていないので必要だと思う。

【岩野座長】 続いて41ページの施策の体系について。担当部署は多くが教育委員会となっているが、これだけのプロジェクトをすべて担当するのは大変。具体的な取り組みの中でも優先順位をつけていかなければいけない。

まず子どもたちへの取り組みについて考えていきたい。ここでの「学校」というのは小中学校だけを指しているのか？

【事務局】 小中学校を想定している。

	<p>【岩野座長】では、ここに小中学校と記載する必要があるのでは。</p> <p>【大岩根委員】②岩国ならでは～の取り組み「基地内小学校との交流」は、実際には小学生同士ということに限定しているのか。</p> <p>【事務局】小中学校を対象にしている。</p> <p>【岡崎委員】将来的には高校などとの連携可能性も想定して、小中学校よりも、基地内学校という表現の方が幅は出るのではないか。</p> <p>【岩野座長】では①も学校だけにしておく方が良いかもしれない。イベントに高校生が参加するのは問題ないか。</p> <p>【事務局】参加については全く問題ない。</p> <p>【岩野座長】②で「岩国を紹介するオリジナル英語教材…」などについてはどうか。</p> <p>【事務局】取り組みに▲の付いているもののうち、「岩国を紹介するオリジナル英語教材と観光ガイド体験等」では、故郷を愛する心を育むため、地域教材を使っていこうという意図がある。例えばオオサンショウウオの英語での紹介などは昨年度から呼びかけをしている。</p> <p>【岩野座長】ここに▲が付いている3つの項目は、実現可能性が高い印象がある。</p> <p>【事務局】将来的には是非とも思っている。</p> <p>【松重委員】観光ガイド体験等については、コミュニティスクールで1年生くらいから岩国のことを学び、最終的に中学校2年の広島、中学校3年の京都での修学旅行で外国人に岩国をアピールする、という体験をしている。</p> <p>【二上委員】ほぼ毎週水曜日に、基地に新しい人が来たら錦帯橋へのガイドを英語で行っている。(子ども達が)それに同行すれば親しめるのでは。</p> <p>【松重委員】岩国小学校ではちびっこガイドのようなことも行っている。</p> <p>【藏重委員】水曜日の午後、子ども達と時間帯は合うだろうか。</p> <p>【二上委員】祝祭日や夏休みなどでもいいと思う。</p> <p>【岩野座長】次に真ん中にある「(仮称)英語交流のまち推進センターでの取組」について。どういう人がどんな時間帯、目的で利用したいか。また、管理者や運営についても検討したい。</p> <p>【大岩根委員】この推進センターは3カ年計画と言うことだが、それ以降も長期にわたって運用していくのか。</p> <p>【事務局】長期的な運用になる。来年度実施設計のうえ令和3年度、つまり令和4年の3月までにはオープンしたいと思っている。</p> <p>【波田委員】候補地はあるのか。</p> <p>【事務局】まだ検討中だが、街の中心部付近を想定している。</p> <p>【波田委員】場所は非常に大事になると思う。</p> <p>【佐久間委員】担当部署と関連部署とで2段階となっているが「推進センターでの取組」では教育委員会とセンターがタッグを組んで、そこに他の課が絡んでくるのではと思う。課題として情報発信が重要になるというのがある。それをセンターが一元的に担うのか、役割分担をするのか。SNSでの情報発信においても教育委員会とセンター、その後ろの広報戦略課の連携をどうしていくか。</p> <p>【岩野座長】「⑦情報の収集と発信、提供」は非常に重要。ここは全体の情報発信として、まとめて位置を変えたほうがいい。また、情報発信や連携はどんな感じになるか。センターの管理者に任せるのか。</p> <p>【事務局】基本的にはセンターの管理者が一元的に管理するのがよいと思うが、今後検討を進めたい。</p>
--	--

【中邑委員】先日、カフェ内で英語のレッスンしている人を見かけた。大人になって英語を学びたいときに、イングリッシュカフェのように、お茶を飲みながら気軽に交流したり、きちんと料金が決まっていて有料で英語のシャワーを浴びたりするような体験にした方が続きやすいのではないかと思う。

【岩野座長】センター内で講座を開きたい人、学びたい人は多くいる。学びたい人へのマッチングも必要になるのでは。

【中邑委員】講座の授業料や手当はどうなるのか。

【大岩根委員】東京の民間によるイングリッシュカフェはボランティアが多く、フリードリンクで利用料が1時間で1,000円程度とのこと。岩国でイングリッシュカフェのような取り組みを行うとすれば、上手く告知をしないと人が集まりにくいのではないかという懸念はある。

【岩野座長】飲み物が出せるような施設。キッチンスペースや自分で紙コップでドリンクを飲めるようなスペースも必要になるのでは。

【藏重委員】英語のシャワーというのは面白いシステムと思う。ただボランティアに対する考え方はアメリカ人と日本人では違う。(アメリカでは)ボランティアの精神は中学生くらいから培われていて、お金とは関係なく何かしたいという人はたくさんいる。

【岩野座長】英語の学びはこのセンターで成立するのでは。子どもから大人、個人や家族、独身の人や様々な年代の人まで対応するには、開館時間も重要になる。

【藏重委員】仕事をしている人は夕方から夜になるように思う。

【浜桐委員】働いている人とそうでない人で全く変わってくる。

【岡崎委員】昼の仕事の人は翌日もあるので、夜9時頃には終わらないと。仕事で遅くなっても意識が強ければ来るとは思うし、ニーズもたくさんある。実際、中学校のALTを活用して地域での英語学習の場を設けているが、関心は高い。ただ、講座への入りやすさ、一歩踏み出すきっかけが重要になってくる。

【岩野座長】③の英語をキーワードとする就業の促進については、誰がどのような対応をするか。ビジネスの観点からのマッチングのための窓口の人がいるのか？ここで相談だけ受けて商工振興課へ電話を回すという感じになるのか。

【事務局】ここに書いてあるのは、こういったものが出来るようであれば、という感じのもので、まだ具体的なものではない。

【岩野座長】センターには、皆さんはどういったイメージを持っているのか。

【中邑委員】市内の幼稚園に通う基地の子どもの中には、年長の2学期からペリースクールに変わる子と、親御さんが軍人を辞めるなどして地元の小学校へ行く子との2つに分かれる。ということは、岩国には軍人を辞めても仕事は沢山あるということではないだろうか。そう考えると、岩国でインターナショナルな仕事とのマッチングも出来るのではないか。日本人が英語を学ぶだけに加えて、米軍を卒業した元軍属の人々とともに生活できる、素敵な街になればいいと思う。

【大岩根委員】センターで、英語関連の求人情報掲示やマッチングはできるのではと思う。例えば、岩国商工会議所で作ったウエルカムステッカーを貼っているレストランや店舗は100件ほどもあり、英語の需要が高いのでは。こうした店舗では求人をどうしているのだろうと思っている。商工会議所との連携で情報発信をしていくことも必要だろう。

【中邑委員】(レジを)打つなどの仕事をしている外国人はあまり見かけない

が。

【大岩根委員】東京のドラッグストアは日本の薬を求めて外国人が来店することが多いことから、従業員も中国人や韓国人を始めとして外国人が多数いて日本人の方が少ないくらい。みな日本語がうまい。岩国にもそういう時代が来るのではないか。

【藏重委員】昔、メインゲートの辺りはインド人が多く、テイラーなどもあった。今のゲート前は何もない。川下地区と協力して、スーパーに行ったらアメリカ人が働いているなどがあれば、それは看板になると思う。また、基地の人たちからは、(ウエルカム)ステッカーが目に入らないことが多く、もっと大きくして欲しいとの声を耳にした。外国人がお店に入り易い仕組みを作っていくのもセンターの役割では。観光案内所とは違った面で、仕事や勉強、人とのコミュニケーションがとれる場にしていかなければいけない。

【浜桐委員】私も詳しく知ってるわけではないが、軍は転勤もあるし、S O F Aの資格で働いてる人が簡単に外で働くというのは難しい。サイドビジネスを行うのも許可が必要で、アメリカ人が基地外で働くというのは考えにくい。

【藏重委員】確かに(軍人の)奥様も働けないが、ボランティアへの意欲は高い。

【岩野座長】センターでの取組の「⑦情報の収集と発信、提供」は特に強調したい。また、地域での取組の「①イングリッシュ～」、「②交流イベント～」はプロジェクトの主旨からして、どうしていくか。

【大岩根委員】「◆一流アスリートのキャンプ、芸術家による演奏会などの誘致と実施」というのは、日本人のアスリートのみか。

【事務局】海外からも含むというイメージである。

【浜桐委員】「①イングリッシュフレンドリーな地域づくり」について、先日アメリカ人から、イベントがあっても行きにくい、マップが欲しいという話があった。Googleでも分かるが、岩国市の詳細な英語マップがあれば、もっとわかり易くなると思った。

【藏重委員】私もそれを昨日聞いた。岩国のお役立ちニュースみたいなのがあればいい。イベントだけでなく買い物や食事など、生活に必要な情報が英語では入手しにくいとのこと。基地から警察や病院などについての情報はあるが、実際に岩国に住んでいる人からの情報が欲しい。

【岩野座長】外国人の主な情報の入手はどこから？

【浜桐委員】基地内も小さなコミュニティではあるので、SNSや口コミで、実際に行った人の情報が拡散する、ということが多いと思われる。

【岩野座長】施策の体系について、他に事務局からなにかあるか。

【事務局】センターについては委員の意見やワークショップを踏まえて、これから検討していきたい。

【岩野座長】48～49ページの「7 推進体制(1)」の「プロジェクトチーム(9課)」に教育政策課と政策企画課が入っている。施策の体系には入っていないようだが。

【事務局】事務局が教育政策課に属している。政策企画課はアドバイス中心となる。

【岩野座長】スケジュールについて、プロジェクトチームと管理運営の進行、委員会との関係はどのようになるのか。

【事務局】今年度から3年間ということで、今年度は次回含めて4回の検討会で方針を固め、来年以降は年2回くらいで事業計画や進捗管理などの確認をして

いく。

【岩野座長】プロジェクトチームの頻度は？

【事務局】随時になると思っている。

【大岩根委員】「8 推進スケジュール」のところに、地域での取組という項目が入っていないようだが。

【岩野座長】先ほどの3つの取組の並びで入れた方がわかり易い。他には？

【浜桐委員】色々なことが形になってきている。岩国市民としては楽しみなプロジェクトだが、アメリカ側の視点から見ると片思い的な温度差を感じてしまう。実際に英語交流の対象となる基地の人達のニーズを把握して反映できないか。

例えば、桂町のこども館には子供連れの外国人が多く来ており、理由として、基地内には屋内で乳児を遊ばせる施設が意外と無いとのこと。基地内には学校以外に家庭で勉強を教えるホームスクーラーが沢山いて、そういった人達が日中行く場所として利用している。

何を必要としているかを知ることによって、人が集まりやすい企画が立てられるのではないかと思うし、アメリカ側の視点も考えていくべきと感じる。

【藏重委員】基地内の母親は若い世代が多く、市の担当者と話をしたい、意見を聞いてほしいという要望も強い。そういった機会を設けてみてはどうか。

【岩野座長】ニーズによっては、センター内に託児機能や子どもを連れてきて遊ばせる場なども必要になるかもしれない。

【浜桐委員】親子の交流機会のサポートもできればいいと思う。

【岩野座長】基地内のいろいろな年代の人にグループインタビューをしてみたらどうか。基地住民の意見を聞かずにプランをつくるというのもどうかと思う。

【事務局】（グループインタビューは）今後検討したい。

【岩野座長】現在想定を担当部署を見ると教育委員会の負担が大きい。従来のものプラス、新しい事業が多数ある。推進体制強化や事務局員の拡充なども必要では。大学等との連携、市民団体との連携やボランティアの導入もある。多岐にわたるプロジェクトやイベントの管理をどうしていくかという課題がある。事務局とプロジェクトリーダーの手腕が必要になってくる。

【岡崎委員】（3）大学等との連携の「○市内にある高校にも～」は、「高校に」だと印象が違ってくる。他にも特長、特徴、特色など、ちょっとした言葉や使い分けを少し検討してもらえれば。

もう一つ、留意点にもあるが、学校の英語教育に対する市民の期待は高い。先生や指導者が大事だろうと思う。指導者研修の充実という項目はあるが、ここはもう少し踏み込めないか。岩国にはいい先生が沢山いることをアピールできるとよい。

【岩野座長】ソーレンセン先生は色々なところで英語を教えてきているが、将来的に岩国市の子ども達が、他市の子どもよりも英語が優れていると示すとすれば、どのような点を見ていけば良いと思うか。

【ソーレンセン委員】岩国市は、ALTは多いが、街にいる外国人は多くはない印象。素案の29ページの小中学生のアンケート結果に「困っている外国人を助けてあげたい」や「英語を使って外国人と話してみたい」とあるが、機会としては少ないかもしれない。学校以外では（他市と）あまり変わらないかも。

【岩野座長】それは変えなければ。

【藏重委員】私はそうは思わない。アメリカ人は結構見かける。

【松重委員】飲食店に行くと、他の市町村よりは（外国人が）多いかなと感じる

が。

【岩野座長】ステッカー（取り組み）も見えるようにしていかないといけない。

【藏重委員】もっと貼ってもらえるように。いい評判は口コミでアメリカ人にも広がるので。

【岩野座長】他に気づいた点があれば、数日中なら事務局にメール、ファックスで連絡いただきたい。今後の予定について事務局から。

【事務局】これからの予定について、本日の意見をもとにパブリックコメントを実施予定。第4回の検討会は2月の最終週（27日）の午後を考えているが、改めてご連絡する。

(以上)